

機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計（JMDNコード：14032010）

テルモ電子体温計C231

【警 告】

- 子供だけで使わないこと。
[本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。]

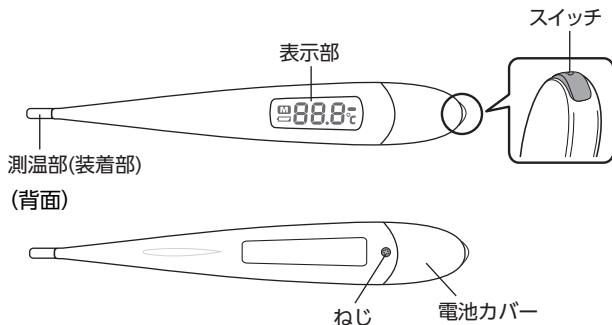
【禁忌・禁止】

- 引火性のある環境では使用しないこと。
[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]

**【形状・構造及び原理等】

<構造図>

- * ●本体
(正面)



●収納ケース



●表示部 ※説明のため、全点灯で表示



外観寸法：長さ129mm×幅17.6mm×厚さ12.6mm
質 量：約12.8g（電池含む）

付 属 品：EMC技術資料、取扱説明書/品質保証書、収納ケース
[機器の分類]

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF形装着部
水の浸入に対する保護の程度による分類：IPX7

[電気的定格]

電 源：アルカリマンガン電池（LR41）2 個（交換可）
電 圧：DC 3.0V
消費電力：約3.0mW

<原理>

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタ

ルで表示する。検温中は、平均約20秒（おおよそ16～25秒）で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると、検温開始から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

[付帯機能]

- 初期動作確認機能：電源ON 時に所定の表示をし、検温（告知機能）可能を告知する。
- 予測成立ブザー機能：予測成立時にブザーが鳴動する。（告知機能）
- 定刻ブザー機能：検温開始から約10 分後にブザーが（告知機能）鳴動する。
- エラー表示機能：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示（告知機能）部に「E」を表示する。
- 使用温度範囲外表示機能：使用周囲温度が、使用条件の範囲外（告知機能）の場合は、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。
- 体温値点滅表示機能：体温計の測温部が大ききずれた場合（告知機能）等で正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。
- 動作不能告知表示機能：体温計が動作異常を検知した場合は、（告知機能）「EE」のマークを表示する。
- 電源入切機能：スイッチを押すごとに電源がON／（電源制御機能）OFFする。
- オートパワーオフ機能：検温せずに所定の時間放置すると電（自動電源遮断機能）源が遮断する。また、検温終了後所定の時間放置すると電源が遮断する。

**【仕様に係る事項】

- ・最大許容誤差（温度指示精度）：±0.1℃以内（標準温度計に対して）
- ・測温範囲：32.0～42.0℃
- ・使用条件：周囲温度 10～40℃
相対湿度 30～85%RH（ただし、結露なきこと）
周囲気圧 700～1060hPa

【使用目的又は効果】

<使用目的>

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

**【使用方法等】

[測定方法]

1. スイッチを押して電源を入れる。前回値を表示した後、検温開始が可能である旨を表す「88.8」を表示する。
2. ワキ下中央に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 体温計はななめ下から30° くらいの角度で、押し上げるようにはさみ、ワキをしっかりとしめる。
4. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
 - ・予測検温
最初のブザーで取り出す（平均約20秒（おおよそ16～25秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。
 - ・実測検温

取扱説明書を必ずご参照ください。

- 2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（検温開始から約10分で測れ、「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
5. スイッチを押して（1秒以上）電源を切る（電源を切り忘れても約3分後に自動的に電源が切れる）。
- 【電池の取り替えかた】
1. 小型のプラスドライバー（サイズ：0番用）でねじを外し、電池カバーを外す。
 2. つまようじ等で使用済みの電池を取り出す。
 3. 新しい電池を入れる。（2個同時交換）
 4. 電池カバーを本体にはめ、ねじをしめる。
 5. スイッチを入れ、正しく表示されることを確認する。
- ＜使用方法等に関連する使用上の注意＞
1. 体温は時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しているので、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
 2. 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ること。【正確な検温ができないことがある。】
 3. ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ること。【汗をかいたまま測ると、ワキ下が冷えているために正確な検温ができない。】
 4. 電源を入れるときや検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。【正確な検温ができないことがある。】
 5. 体温計を真横からはさまないこと。【先端（測温部）がワキ下中央に正しくあたらないために、正確な検温ができない。】
 6. 検温中は、体を動かしたり、体温計を動かしたりしないこと。【体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。】
 7. ワキ下に強く密着させて測定すること。【お年寄り、やせている方等で、ワキ下の密着が弱い場合は、正確な検温ができない可能性がある。】
 8. くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。【そのまま測ると、検温値が高くなることがある。】
 9. 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。【予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。】
 10. 数値を読み取る際は、体温計の先端（測温部）に触れないこと。【表示が変化することがある。】
 11. 表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおすこと。
 12. 指定以外の電池を使用しないこと。【故障の原因となる。】
 13. 電池の交換は同じ種類の新品の電池を2 個同時に行うこと。【古い電池を混ぜて使用すると電池が発熱し、故障の原因となる。】
 14. 外したねじ、電池、電池カバーは子供の手の届かないところに置くこと。【子供の手の届くところに置くと誤飲の可能性がある。】
 15. 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けること。【失明やけがのおそれがある。】
 16. 使用済みの電池を取り出す際は、つまようじ等を使い、金属製の棒等は使用しないこと。【故障の原因となる。】
 17. 電池を取り出す際は、内部の部品に触れたり、引っ張ったりしないこと。【故障の原因となる。】
 18. 電池のプラス面を上にして入れること。【プラス、マイナスの向きを間違えて入れると故障の原因となる。】
 19. 電池カバーの内側についているゴムのリングをなくさないようにすること。また、電池カバーと本体との間に異物等が挟まらないように注意すること。【隙間から水等が内部に浸入し、故障の原因となる。】
 20. 電池や電池カバーを無理な力で押し込まないこと。【本体が破損する可能性がある。】
 21. 電池カバーを本体にはめる際は、ねじを強くしめすぎないこと。【本体が破損する原因となる。】
 22. 電池を重ねて置かないこと。【発熱、発火の原因となる。】

23. 電池を火の中に投げ込まないこと。
- ** 24. 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。
- ** 25. 電池の使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがある。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 人の体温測定以外に使用しないこと。【けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。】
2. 測定結果の自己診断、治療は行わないこと。【自己診断、治療は危険である。】
3. 取扱説明書を確認の上、使用すること。
4. ワキ下以外（口中等）で使用しないこと。【誤飲やけがの可能性がある。正確な検温ができない。】
5. 使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。【検温値の異常や、けがの可能性がある。】
6. 破損したものは使用しないこと。【検温値の異常や、けがの可能性がある。】
7. 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。【破損や故障の原因となる。】
8. 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないこと。【誤作動や故障の原因となる。】
9. 本品に液体や異物が入らないように注意すること。【液体や異物が入ると内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因（検温値の異常を含む）となる。】
10. 本品は気密構造ではないので、活性ガス（消毒用ガスも含む）環境や多湿環境等で使用、放置しないこと。【内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。】
11. 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。【装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。】
12. 本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。【本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。】
13. 分解、修理、改造は行わないこと。【破損や故障の原因となる。】
14. 本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないこと。【表示部の破損や故障の原因となる可能性がある。】

** 【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

- ** 暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。

保管条件：周囲温度 -10～50℃

相対湿度 30～95%RH（ただし、結露なきこと）

周囲気圧 700～1060hPa

【保管上の注意】

日光や紫外線等の強い光が当たる場所に保管したり、長時間放置しないこと。【外装の変色、劣化や故障の原因となる。】

【電池について】

- ・約1000回（予測検温）使用することができる。実測検温では、約300 回連続測定できる。
- ・付属の電池（本体に装着済み）は、お試用であり、寿命が短い場合がある。
- ・使用済みの電池や体温計を廃棄する際は、各自治体のルールに従って適切に廃棄すること。

＜耐用期間＞

耐用期間：4.5年（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

【保守点検上の注意】

1. しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入る

- こと、「電池電圧低下」マークが点灯していないことなど）を確認してから使用すること。
2. 本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ること。
 3. シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。なお、希釈率はその製品の電子添文に従うこと。
クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物
[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となる。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがある。]
 4. 消毒液等に水没させないこと。消毒する際は、先端部のみを必要な時間だけ浸し、その他の部分は脱脂綿等で拭くこと。[本品の防水は、薬品での防水は保証しておらず、故障の原因となる。消毒に必要な時間については消毒液の電子添文を参照すること。]
 5. ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損や故障する可能性がある。]
 6. 熱湯消毒しないこと。[故障の原因となる。]
 7. クレゾールは使用しないこと。[故障の原因となる。]
 8. 超音波洗浄しないこと。[故障の原因となる。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-008-178 テルモ・コールセンター

